

街を行く

第118回 いまの銀座 Ginza

街を守る＝街に関わる人たちを守る、です



地味でしょぼくしてしまった銀座の街。観光客はいつ戻る？

今回から街を“行く”の復活です。「街に行けない」シリーズは、書いていて正直ストレスが溜まりつまらないので、思い切って(当然コロナ対策をしっかりして)銀座に出ることにしました。銀座はこの4月、インバウンド客が消えた寂しい風景をお見せして以来です。いまは感染者数が減少したとはいえ油断を許さない時期。人が溢れる想像はしていませんでしたが、やはり閑散とした街の有様でした。これは皆さんの外出自粛の成果に違いはありません。でも、もうそろそろ「withコロナ」で気持ちを切り替えないと大変な状態になる、と焦りを感じたのも事実です。そして、人も街も一度後ろ向きになると、再び進むのは難儀なものだと思いました。在宅勤務生活が続き、外出はマスクをして近所をブラブラ歩くだけの気楽さを覚え、街に出るのが次第に億劫になるものです。

それでも小生は街に出たかった。もうデリバリーの料理には飽き飽きで、外食がしたい。買物はネット通販で十分でも、やはりウインドショッピングを楽しみたい。不要不急のあれこれが山の様に頭に浮かんできます。やはり外の世界との接触で生きてきたわれわれ人間は、家に閉じこもりきりなど無理です。もちろん、この状況下で外出を奨励しているわけではありません。上手く街と関わってほしいと言っているのです。今回のコロナ禍で生活習慣や日常の行動様式までガラリと変わりました。在宅勤務を通じ、自分の住む街は自分たちで守ろうという地元意識も生まれました。街を守るというのはそこで生活する人を守るということで、降りかかった火の粉を払うものではありません。人が住む街には病院や飲食店など生活に不可欠な施設があります。そこで働く人、

利用する人みんなを守ることです。銀座のように出かける街はどう守っていけばいいのか。働く人や観光客も守るべき対象でしょう。観光立国を目指す日本で、インバウンド客の購買力を無視しては生き延びられないことを再認識しましょうよ。それが街の特色にもなってきますよ。生き残りの原点がここにあるのでしょうか！

南 一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。